

二人の友

芥川龍之介

青空文庫

僕は一高へはひつた時、福間先生ふくまに独逸語ドイツを学んだ。福間先生は鷗外おうぐわい先生の「二人ふたりの友」の中のF君である。「二人の友」は当時はまだ活字になつてはいなかつたであらう。少くとも僕などのそんなことを全然知らなかつたのは確かである。

福間先生は常人よりも寧ろむし背は低せいかつたであらう。何でも金きんぶ縁ちの近眼鏡きんがんきやうをかけ、可成長かなりい口髭くちひげを蓄たくはへてゐられたやうに覚えてゐる。

僕等は皆福間先生に或親しみを抱いだいてゐた。それは先生も青年のやうに諧かいぎ諺やくを好んでゐられたからである。先生は一学期の或時間に久米正雄くめまさおにかう言はれた。

「君にはこの言葉の意味がクメとれないんですか？」

久米も亦^{また}忽ち洒落^{しやれ}を以て酬^{むく}いた。

「ええ、ちよつとわかりません。どう言ふ意味がフクマつてゐるか」

福岡^{ふくま}先生は二学期からいきなり僕等にゲラアデ・アウスと云ふギズキイの警句集を教へられた。僕等の新単語に悩まされたことは言ふを待たないのに違ひない。僕は未^{いま}だにその本にあつた、シユタアツ・ヘモロイダリウスと云ふ、不可思議な言葉を記憶してゐる。この言葉は恐らくは一生の間、^{あひだ}薄暗い僕の脳味噌^{のうみそ}のどこかに木の子のやうに生えてゐるであらう。僕はそんなことを考へると、いつも何か可笑^{をか}しい中に儂^{はかな}い心もちも感じるのである。

福間先生の死なれたのは僕等の二年生になつた時か、それとも三年生になつた時か、生憎あいにくはつきりと覚えてゐない。が、その一週間か二週間か前まへに今の恒藤恭つねとうきよう——当時の井川恭ゐがはと一しよにお見舞に行つたことは覚えてゐる。先生はベツドに仰ぎやうぐわ臥ふさされたまま、たつた一ひとこと言こと「大分好い」と言はれた。しかし實際は「大分好い」よりも寧むしろ大分悪かつたのであらう。現に先生の奥さんなどは愁うれはしい顔をしてゐられたものである。

或曇つた冬の日の午後、僕等は皆福間先生の柩ひつぎを今戸いまどのお寺へ送つて行つた、お葬式の導師だうしになつたのはやはり鷗おうぐわい外がい先生のふたり「二人の友」の中の「安国寺さんあんこくじ」である。「安国寺さん」は式をすませた後のち、本堂の前に並んだ僕等に寂滅じやくめつ為ため樂らくの法を説

かれた。「北ほく邨ぼう山さん頭とう一いつ片ぺんの煙となり、」——僕は度たび

「安国寺さん」のそんなことを言はれたのを覚えてゐる。同時に又ちやうど丁度その最さい中ちゆうに糠ぬか雨あめの降り出したのも覚えてゐる。

僕はこの短い文章に「二人の友」と云ふ題をつけた。それは勿論もちろん鳴外先生の「二人の友」を借用したのである。けれども今読み返して見ると、僕も亦また偶然この文章の中に二人の友だちの名を挙げてゐた。福間先生にからかはれたのは必かならずしも久米に限つたことではない。先生はむづかしい顔をされながら、井川あがはにもやはりかう言はれた。

「そんな言葉がわからなくてはイカハ。」

(大正十五年一月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

二人の友

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>